

Title	ロバシイ・不完全競争の下に於ける關稅
Author(s)	岡倉, 伯士
Citation	經濟論叢 (1937), 45(3): 424-431
Issue Date	1937-09-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/130994
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 三 號 第 四 十 五 卷

昭和二十二年九月一日發行

論 叢

ケインズの利子理論

文學博士 高田保馬

昭和十二年度豫算を論ず

經濟學博士 汐見三郎

第二次産業組合擴充三ヶ年計畫

經濟學博士 八木芳之助

時 論

北支事件特別税

法學博士 神戸正雄

研 究

再保險學說の發展

經濟學士 佐波宣平

所謂倫理的經濟學に於ける人間學

經濟學士 出口勇藏

支拂準備金の構成

經濟學士 上野淳一

說 苑

日本金爲替本位制の擴大強化

經濟學士 松岡孝兒

國防經濟と財政政策

經濟學士 柏井象雄

ロバシイ・不完全競争の下に於ける關稅

經濟學士 岡倉伯士

物價指數の意味に關する一考察

經濟學士 内海庫一郎

附 録

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁 轉 載)

ロバシイ・不完全競争の下に 於ける關稅

岡倉 伯士

貿易理論は今日二つの方向に向つて、より一層の展開を必要とする。その一は、貿易現象の動態理論的分析の方向へであり、いま一は、貿易現象を獨占的及び準獨占的經濟組織の下に於て分析する方向へである。封鎖的な一經濟領域に關する動態理論及び獨占・準獨占理論は、既に輝かしい發展をなしたし、また現になしつゝある。けれどもこれ等の理論の貿易現象への適用は、漸くその緒についた程度であると言つても過言ではなからう。

獨占的貿易現象は、競争的貿易現象と根本的に異なる。そしてそれが如何なる程度の競争の制限に相應するかに従つて、貿易に於ける完全獨占、複占または多占及

び不完全競争に分たれ得る。これ等三者は貿易政策の效果に於て、それ／＼特異な問題を提起するのである。こゝでは『不完全競争の下に於ける保護關稅』の作用について、ゲルトルド・ロバシイの所論を出来る限り忠實に紹介するにとどめ、問題の總括的な研究は後の機會を俟つことにする。

問題の中心に立入る前に、先づ不完全競争の特徴について一言して置かねばならない。不完全競争の下に於ける市場状態は、一面に於て、競争者が充分に多數である點に於て、「モノポール」・「ドウオポール」・更に「ポリポール」の市場状態と異り、他面に於て、個々の販賣者によつて提供せられる生産物が完全にその質（廣義）を等しくしない點に於て、「完全競争」の市場状態と異なる。生産物が等質である場合に或る販賣者がその販賣価格を引下げれば、全需要はこの販賣者に集中する。これに反し価格を引上げれば、需要は一度に彼から離れ去る。生産物が異質である場合には、その様な結果は招來されない。買手の一部は價格政策の對象

註) Gertrud Lovasy: Schützzölle bei unvollkommener Konkurrenz. Z. f. N. Bd. V Heft 3, 1934, Juni S. 336 ff.

となつた質の生産物を買ふことを欲しない。彼等はより高い價格で自己の好む質を獲得しつゞける。従つて個々の販賣者の價格政策は、全需要を彼に集中せしめ、或ひは彼から離れ去らしめる結果とはならない。そして價格政策の發動による需要の減少乃至増加の程度は、それ／＼の質に於て相違する。また多くの場合、質の相違は生産費の相違と結びつく。

しかしまた他面に於て、個々の販賣者による價格引下げは、その質に對する部分的な追加的需要を引起す。買手の一部は、高い價格で良質の生産物を獲得するよりも、寧ろ質の低下を忍んで價格の引下げられた質の生産物に向ふ。

完全競争の下に於ては、價格に對して影響を及ぼし得ない多數の供給者が市場に存在し、個々の供給者は支配的價格で如何なる數量をも供給し得る。しかもそれによつて需要の變動が招來されはしない。このことはグラフでは、水平な個別的、需要曲線で表現される。個々の生産者は、その平均費用が極小である點（生産オ

プティマム）まで生産する。完全獨占の下に於ては、個別的、需要曲線は當該經濟領域の總需要曲線そのものである。それは左から右へ向つて遞降する。獨占者は費用極小點までではなく、利潤極大點（クルノー點）まで生産する。

不完全競争者の個別的、需要曲線もまた、左から右へ向つて遞降する。しかしその曲線は、完全獨占の場合の如く當該經濟領域の總需要曲線によつて示されるのではない。曲線の位置及び形狀は同一の用途を有する、しかし質を異にする生産物の供給者の數、及び質の相異性の程度に依存する。他の條件が同一であれば、供給者の數が少なければ少いほど、個々の販賣者に向ふ需要は大である。曲線の位置は右方へ移る。質の相異性が大であれば、個々の販賣者が價格政策を發動することによつて、追加的需要を自己に誘引する可能性は小である。需要曲線は急勾配をなす。反對ならば反對である。

不完全競争に於ては、供給者が多數であり、且つそ

れゝの質が相互に代替され得る結果として、完全獨占の場合の如く超過利潤は得られない。それゝの質の間に價格差が存在するとしても、その價格差は質の相違（從つて一般に生産費の差異）に依存するであらう。質との關係に於て價格が高すぎる場合には、その質の需要の一部は斷念され、一部は他の異質の、しかし同一用途を有する生産物に轉ずる。それ故に生産は、個別的需要曲線と平均費用曲線とが接するまで行はれる。この接點は平均費用曲線の谷ではあり得ない。何故なら不完全競争者の個別的、需要曲線は、左から右へ向つて遞降する曲線であるから。平均費用曲線の谷に於て接點を有する個別的、需要曲線は、完全競争の下に於ける市場狀態を表す。このことから不完全競争の下に於ける價格は、完全競争の下に於ける價格よりも常に高く、また販賣數量はより小であることが知られる。

二

不完全競争の下に於ける關稅の作用を研究するに當つて、ロバシイは次の様な簡單から複雑への道を歩む。

(一) 國內にたゞ一人の生産者のみが存在し、そして彼が(イ)外國の供給者と完全競争(質の同一性)にある場合、及び(ロ)外國の供給者と不完全競争(質の相異性)にある場合。(二) 國內に多數の生産者が存在し、そして彼等が(イ)外國の供給者と完全競争にある場合、及び(ロ)外國の供給者と不完全競争にある場合。吾々は主として(一)の(ロ)と(二)の(ロ)とのみを學び、他の事例の説明は必要に應じて、これを附け加へれば充分である。

先づ國內にたゞ一人の供給者のみが存在する簡單な場合から始める。關稅實施前に於ける國內の總需要は、彼と外國の供給者との間に分配される。市場には不完全競争が支配してゐるために、國內供給者は生産オプティマムには到達してゐない。從つて經營は遞減費用の下で運營される。しかしこの遞減費用の利益は、途中(グラフ的には個別的、需要曲線と平均費用曲線との接點)までしか利用されない。

いま關稅によつて外國品の輸入が防遏せられるか、

乃至は外國品の價格が著しく高められるとしよう。從來の外國品の購買者は、その生産物の獲得を全く斷念するか、或ひは質の不適當を忍んで國產品に轉ぜざるを得ない。國內供給者に對して追加的需要が創造される。彼の個別的、需要曲線は右方に移動する。彼は關稅額の限度に於て獨占的地位を獲得する。生産費はなほ遞減範圍にある。彼は費用遞減の可能性を利用することによつて、——需要の状態をも顧慮して——可能的極大の利潤が得られるまで生産を増加する。従つて價格は下落する。(一人の國內供給者と外國の供給者との間に完全競争が支配する場合に關稅が實施せられるときにもまた、國內供給者は關稅の限度に於て獨占的地位を獲得する。しかしこの場合には、既に生産オプティマムが到達されてゐるために、生産の増加は遞増費用の下に於て行はれ、従つて價格は從來よりも騰貴する。)

價格の下落は本來の費用遞減可能性によつて招來されるばかりではない。不完全競争から獨占への移行は、費用形成そのものを變化せしめる。即ち關稅に

ロベシイ・不完全競争の下に於ける關稅

よつて外國の競争が排除せられるときは、從來不完全競争の下に於て支出されてゐた競争費 (Konkurrenz-kosten)——販賣費、廣告費——が節約される。それはグラフ的には、費用曲線の左方への移動として表現される。費用曲線のかゝる移動は、與へられた事情の下に於ける利潤極大點を右方へ移動せしめる。従つて價格がより一層下落せしめられる。しかし、新費用曲線は、必ずしも舊費用曲線に平行ではない。何故なら競争費は一般に、總費用に對して固定的な割合を占めるものではなく、時々の販賣量及び價格の如何によつて變化するものであるから。費用形成を變化せしめるいま一つの要素として「外部經濟」の可能性が考へられるが、それについては後に述べる。

三

いま一步具體化して、外國供給者と國內供給者との間に不完全競争が支配し、しかも國內生産者が多數である場合を考察しよう。ここで更に、(イ)多數の國內供給者の間には完全競争が支配する場合と、(ロ)彼等

の間にもまた不完全競争が支配する場合とが區別せられる。

先づ(イ)の場合について説明する。こゝでは一面に於て、國產品と外國品との間に不完全競争關係が存在する結果として、國內供給者は有效な價格政策を發動することは出来ない。換言すれば價格を引下げても必要な需要の増加を喚起し得ない。他面に於て、國內では完全競争が支配する結果として、個々の經營は生産オプティマムまで運營せられてゐる。かゝる事情の下に於て關稅が實施せられ、外國品の輸入が防遏されるときは、國內供給者に對して、追加的需要が創造される。即ち從來外國品に向けられてゐた需要の少くとも一部が國產品に向けられる。しかし個々の經營は既に關稅實施前に生産オプティマムに到達してゐるから、追加的需要のための追加的生産は遞増費用の下に於て行はれる。従つて價格は騰貴する。

國內供給者の間にもまた不完全競争が支配する場合には、關稅によつて齎らされる個々の國內供給者の追

加的需要の大きさは、それ／＼異なる。否ある個別的供給者に對しては、何等の追加的需要も起らないことすら考へ得られる。かくて國內の個別的需要曲線は、關稅實施前に比して、あるものは強く右方へ移動し、あるものは弱く右方へ移動し、またあるものは不變であり得る。更に曲線の勾配もまた様々に變化し得る。追加的需要を克ち得た個別的供給者は、暫定的に獨占利潤を實現し得る。しかしやがて國內に新生産者が出現すればその獨占利潤は消滅する。若し新生産者の出現に對して何等かの障礙が存在すれば、その獨占利潤は永續的に維持される。(カルテル形成)

價格は關稅實施前に比して如何様に變化するか。それについては一般的に次の様に言ふことが出来る。新需要曲線が、從來のそれと一致すれば價格は不變であり、新需要曲線の弾力性がより小であれば、價格は從來よりも騰貴し、弾力性がより大であれば價格は下落すると。このことは需要の弾力性が小であれば比較的小さな販賣量に於て利潤極大點が到達され、弾力性が

大であれば比較的大きな販賣量に於て利潤極大點が到達されると言ふ事情に依存する。

關稅は個々の國內供給者に對して追加的需要を作り出すばかりではない。既に指摘した様に、關稅は外國供給者の競争を排除することによつて、從來支出されてゐた競争費を節約せしめる。更に追加的需要によつて引起される生産の擴張は、謂ゆる「外部經濟」の可能性——必然性ではない——を提供する。これ等の事情が費用の低下、引いては價格の下落を強めることは既述の通りである。

しかし「外部經濟」に基く費用低下は、一の單なる可能性にすぎないことを注意せねばならない。この可能性に對立して、同時に「外部非經濟」の可能性がある。例へば當該部門の一般的生産擴張は、この部門に必要な生産手段の價格を騰貴せしめることによつて、寧ろ價格騰貴の方向へ作用し得る。従つて外部經濟に基く費用低下のみに立脚して關稅を辯護しようとする議論（グラハム）は、一面觀たるを免れない。

ロバシイ・不完全競争の下に於ける關稅

さて不完全競争の下に於ける關稅が價格の下落を招來するにしても、この價格下落の程度は個々の事例に於て如何なる事情に依存するか。この問題にとつては、（イ）關稅實施前の個別的需要曲線の地位及び形狀、（ロ）期待さるべき需要増加、及び（ハ）この需要増加の個々の國內供給者への分配が決定的である。個別的需要曲線の位地は、供給者の數（及び購買者の數）に依存する。供給者の數が少ければ少いほど（また購買者の數が大であればあるほど）、個別的需要數量は大である。反對ならば反對である。個別的需要曲線の形狀（勾配）は、既に指摘した通り、質の相違性の大小に依存する。質の相違性が大であれば、個別的供給者が價格政策によつて需要を左右する可能性は小である。需要曲線は急勾配（弾力性小）である。反對ならば反對。

關稅實施前の個別的需要が大量であり、且つ彈力的であれば、關稅實施前の販賣量は既に生産オブティマムに接近してゐるであらう。従つて關稅の實施によつて招來される價格下落は僅小である。これに反し關稅

實施前の個別的需要が少量であり、且つ非彈力的であれば、從つて質の相違が大であれば、關稅によつて招來される價格下落は大であらう。何故なら今や關稅によつて選擇項目が制限されるために、需要は比較的少數の質に集中され(個別的需要曲線の彈力性の増大)、從つて個別的供給者が遞減費用の利益を利用する可能性が著しく増大するから。

關稅によつて招來される價格下落の程度は、個別的需要の彈力性の外に、需要増加の程度にも依存する。

外國品と國產品との間に不完全競争關係が支配する限り、關稅は從來外國品に向けられてゐた全需要を國產品に轉ぜしめることは出来ない。關稅實施後の需要増加の程度は、當該生産物の必需性に依存する。必需性の大なる生産物に於ては、需要増加は大であり、しからざる生産物に於ては小である。從つて前者に於ける價格下落の程度は、後者に於けるよりも大であらう。

最後に追加的需要の個々の國內供給者への分配もまた、個別供給者の販賣價格に影響する。分配の様式は

外國品との似類性の如何に依存するであらう。分配は彼の生産物の質が外國品により多く類似してゐる國內供給者に厚く、しからざる國內供給者には薄い。前者に於ける個別的な追加的需要は大であり、後者に於けるそれは小である。前者に於ては、遞減費用の利益の利用可能性は大であり、後者に於ては小である。從つて前者に於ては價格下落の程度は著しく、後者に於ては僅小である。かくて關稅は國產品間の價格差をより大ならしめる。

四

結論はこうである。不完全競争の下に於ける關稅は、個々の國內供給者に對して、追加的需要を作り出し、遞減費用の可能性を一層實現することによつて、價格の下落と販賣の増加を招來する。この結論は、完全競争の下に於ける周知の關稅の作用とは正に反對である。かくて不完全競争の前提を採り入れるときは、吾々の從來の理論が重大な修正を受けることが知られる。この結論は、吾々が嘗て保護關稅論に對する反駁

の用具として用ひた、「他の部門からの生産要素の引上げ」と言ふ論據を以てしては反駁され得ない。何故なら不完全競争の下に於ける關稅の作用は、需要を外國品から國產品に轉向せしめることによつて、個々の國內經營に對して遞減費用の利益をより完全に利用する可能性を提供すること、即ち既存設備のよりよき利用に關して居り、従つて他の部門からの生産手段引上げを必要としないからである。

物價指數の意味に關する